

自信を持って取り組み、工夫しながら意欲的に活動する子

## ～パソコンを使った文字学習の取り組み～

加藤 利晴

### はじめに

R男は、人と関わりたいと思いながら場面によって後込みをしてしまう。それは、自分の思いが相手に伝わらないと不安を持っているからであり、その壁を取り払うためにもR男の場合は、基礎的な学習能力の向上、特に、表現力の基本となるひらがなの読み書きができるようになることが必要である。さらに、意欲的に活動できるようになるためには、活動そのものの楽しさを味わったり、成功経験を重ねたりすることが必要であると考え。そこで、人との関わりの拡がりの上で大きな壁となっている表現力、特に文字の習得を、R男が今一番興味・関心を持っているパソコンを媒介にして、自信を持って工夫しながらできるだけ主体的に取り組ませたいと考えた。

### 1 プロフィール

#### (1) 生育歴

- ・昭和57年9月23日生 14歳2か月 中学部2年 男子
- ・初語 3歳「まんま」あまり声を出さず、おとなしい幼児期を過ごす
- ・失語症傾向
- ・小学校3年生の時、本校小学部に転入
- ・両親と兄2人姉1人の6人家族末っ子

表-13 S-M社会生活能力検査

領域	領域別社会生活年齢
SH 身辺自立 Self-Help	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
L 移動 Locomotion	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
O 作業 Occupation	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
C 意志交換 Communication	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
S 集団参加 Socialization	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
SD 自己統制 Self-Direction	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

#### (2) 諸検査による実態

- ・知能検査 I Q 51 W I S C-R (言語性 I Q 48, 動作性 I Q 63)
- ・S-M社会生活能力検査 S A 8歳4か月

移動・作業の領域が高く、意志交換の領域が低い。

- ・自分づくりの段階は自己客観

視の芽生えの段階にあり、周りの人の言動を自分なりに受け入れて、話し合ったり協力したりできる。見通しを持って行動することが多くなってきた。

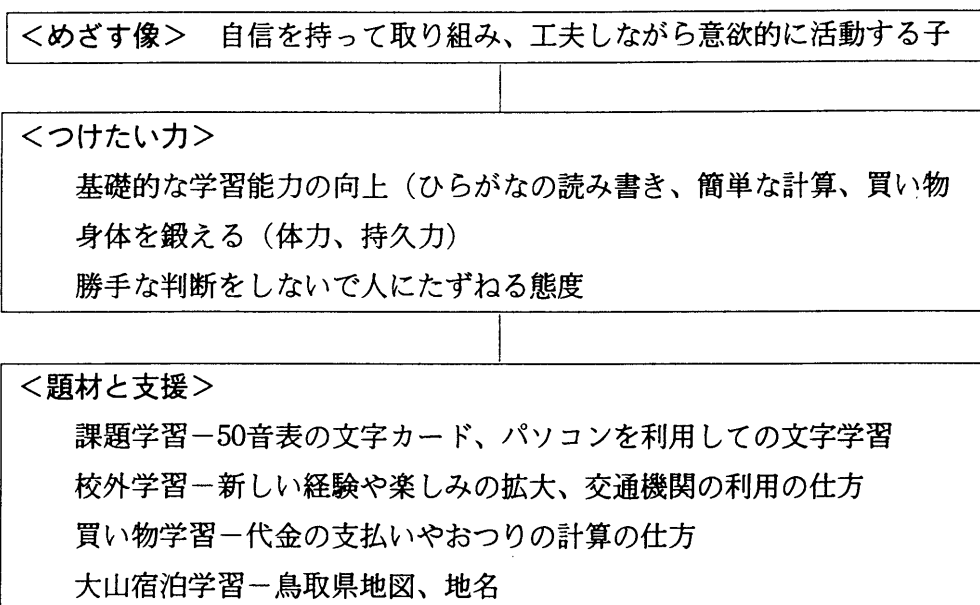
#### (3) 楽しんでいる姿の特性

- ・休憩時には友だちとパソコンをして楽しんでいることがほとんどである。
- ・後期にゲームパソコンクラブの所属となり、他の生徒がパソコンの使い方に不慣れで困っている時、得意になってやってみせる。
- ・道具、工具、機械を使った学習場面になると目が輝いてくる。凧づくり、紙飛行機づくりなどの工作を得意としており、製作に熱中する。

## 2 取り組みの構想

### (1) 指導仮説

R男が自信を持って取り組み、意欲的に活動する姿をめざして次のような仮説を設定した。



### (2) 指導方針

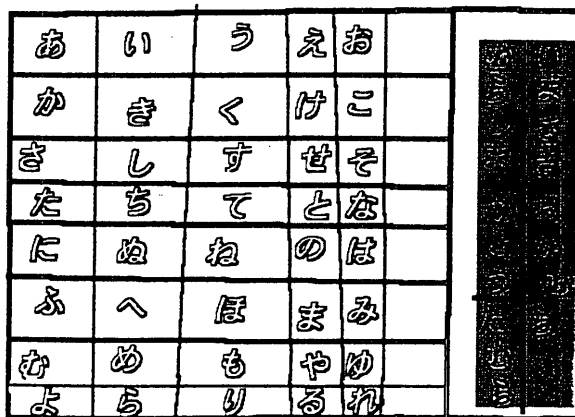
- ・できるだけR男の思いを大切に、機械の操作やパソコンの利用など興味・関心のあるところから取り組む。
- ・朝の会や、帰りの会など指導を要する場面をとらえて発声練習、書写練習をしていく。
- ・パソコン使用のきまりを守って、パソコンを使うように指導する。
- ・天気の良い時には、パソコンばかりでなく、外で友だちと遊ぶように声かけをする。

## 3 指導の実際～課題学習の中でパソコンを使って

平成7年度にパソコンプロジェクトとして導入したAPPLE社のPerforma5320及びPerforma5220計3台のうち2台を教育実習室に置き、生徒が活用できるようにした。課題学習の時には、1学期は主にお絵かきソフト

「キッドピクス」を使用した。

5月末の休憩時間にR男が「パソコンを使っていいですか」と聞いてきた。本人が進んで取り組もうとしたのでこの機会をとらえて、興味をもって継続して取り組めるよう、早速、キッドピクスの起動と終了の仕方、使い方などを指導した。キッドピクスには、おしゃべり文字スタンプ、不思議な鉛筆などの道具があり、R男は予想通り



キッドピクスで書いたひらがな

興味を持った。ひらがなを50音順に選び、表を作り始めた。たとえば、「む」を選ぶとおしゃべり文字スタンプが「む」と発音する仕組みになっており、50音を覚えると同時に発声練習に主体的に取り組むことができた。単語だけでなく、知っている人名について、どれだけ書けるか把握するため、書かせてみたが、担任の名前がほとんどであった。

2学期からは、ゲームパソコンクラブで操作し、興味を覚えた学習ソフト「MACランドセル1年」国語の中から書字および筆順を練習できるひらがなを選び、書字練習に自ら取り組み始めた。マウスを使って書くのは難しそうだったが、点数が100点満点で表示されると、大喜びしながら練習に取り組んだ。

パソコンを使ったひらがなの学習をもとに、パソコンの操作を覚え、生活単元学習や教科学習などの機会をとらえて、作文学習に取り組ませた。50音表を見たり、行事に対する自分の思いや感想を友だちに代筆してもらうなど、友だちの助けを借りながら、少しずつ自分の思いを視写により、作文に仕上げている所である。

#### 4 考察と今後の課題

R男は、ひらがなの読み書きについては、その時には覚えていても定着しないことが多く、なかなか完全には身に付けていないが、少しずつ読み書きできる文字数も増えてきた。文字カードを使用するよりは、パソコンを使った文字学習の方が、集中力が長く続いた。繰り返し繰り返し練習を積み重ねるとともに、学習した内容を保存でき、呼び出すことができるパソコンの利点を生かして、R男と一緒に学習履歴を呼び出したり、プリントアウトしたりして振り返り、ひらがなや語彙の拡大に生かしてきた。

日常場面での発音は、慣れた教師でもまだ理解できないこともあるが、繰り返し聞くと言い直したり、言い換えたりして、わかってもらおうと努力する姿が見られる。発音や発声については、音声のでるパソコンソフトを用意したり、R男も使えるような簡単な音声機能、録音機能などを持つ教材ソフトが使える環境をつくるのが今後の課題である。また、マッキントシュPerforma5220は、R男にとって形や絵を見てマウスで操作できる使いやすいパソコンではあるが、必要な記号を形や絵などで覚え、経験と勘で操作しているのが現状であるので、ひらがなや片仮名をマスターして、表現力を広げ、一太郎・クラリスワークスなどのワープロソフトも使いこなせるようにしたい。

R男が興味・関心を持ち、積極的に取り組もうとする校外学習、学校行事などの題材の中で、写真をスキャナーで取り込み、パソコンを利用してまとめていくような学習も構成していきたい。今後も、パソコンを使った学習だけに止まらず、得意な領域を広げ、そこから自信を持って、やり方を工夫をしたり、楽しんだりしながら、主体的に取り組もうとする意欲と態度が育つように支援していきたい。



パソコンをするR男